学校評価計画

令和４年度　学校自己評価シート　　福生市立福生第三中学校　校長　植 村　多 岐　印

学校教育目標
・よく聞き、よく見、自分の考えをもつ生徒を育成する。・ものごとをやり抜く強い意志をもつ生徒を育成する。　・責任を果たし、みんなのために働く生徒を育成する。　・美しいものをもとめ、豊かな心をもつ生徒を育成する。

目指す学校像（ビジョン・ミッション）
学校教育目標（めざす生徒像）の具現化に向け、中学校が義務教育９年間における最終段階という認識のもとに、「自分の将来に夢や希望をもち、自立して卒業できる生徒の育成」を基本姿勢とする。そのために自尊感情や自己肯定感の育成とともにキャリア教育の充実を図り、確かな学力と自らを律し行動できる生徒の育成を目指す。学校教育目標（めざす生徒像）の具現化を、「自立」「共生」の２つのキーワードでくくり、教育活動を展開する。

【目指す学校像】	【目指す教師像】	【目指す児童・生徒像】	【その他　特記事項】
生徒にとって、安心安全で、認められ楽しい体験ができる学校。また「開かれた教育課程」を推進することで、生徒や保護者だけでなく、地域住民からも信頼され、次代を担う人材を育成し地域に貢献する学校。	①人権感覚に優れ、生徒の人格を重んじ、情熱をもって職務を遂行できる教師　②教育公務員として使命と責任を自覚し、生徒と共に成長する姿勢をもち、組織貢献できる教師	・よく聞き、よく見、自分の考えをもつ生徒 ・ものごとをやり抜く強い意志をもつ生徒 ・責任を果たし、みんなのために働く生徒 ・美しいものをもとめ、豊かな心をもつ生徒	・全ての教育活動で、自尊感情・自己肯定感の育成の視点をもち、自信・やる気、確かな自立を育む教育活動の推進

領域例：学力向上策、生活・進路指導策、人材育成策、研究研修策、学校運営策、特色

領域	三ヵ年経営目標	本年度経営目標	目標達成のための方策	取組指標（教職員の取組）	取組自己評価					成果指標（児童・生徒等の変容・成果）	成果自己評価					分析・改善策
						当初	中期	年間	評語			当初	中期	年間	評語	
学習指導	主体的に学習に取り組む生徒の育成 指標 全教員による研究授業 生徒アンケート 保護者アンケート 教員アンケート 学校関係者評価 福生市学力調査結果 都立高校入試の結果	●授業力の向上 ・主体的、対話的、深い学びの実現に向けた授業改善 ・一人１台端末を活用した授業への取り組み 「授業改善に心掛け、小グループ編成による研究授業の実施」	・生徒にとって、①「学ぶ楽しさを感じる授業」②「分かる授業」を実践し、生徒による授業アンケートで検証する	○ 教員の達成状況　１００％ Ａ　〃　８０％ Ｂ　〃　５０％ Ｃ　〃　５０％未満	目標	Ａ	Ａ	Ａ	Ａ	○ 生徒・保護者の肯定評価９０％以上 Ａ　〃　８０％ Ｂ　〃　６０％ Ｃ　〃　６０％未満	目標		Ａ	Ａ	Ｂ	＜分析＞生徒による授業アンケート①「学ぶ楽しさを感じる授業」肯定的評価８８％ ②「分かる授業」肯定的評価８４％ ＜改善策＞ねらいや課題を意識させ、生徒自らが学習の見通しを立てたり振り返ったりする活動を多く取り入れる。
					達成		Ａ	Ａ			達成		Ｂ	Ｂ		
			・最終年度を迎えた研究テーマ「主体的、対話的、深い学びの実現」に基づいた研究授業を実施し、その成果を検証する。	○ 教員の達成状況　１００％ Ａ　〃　８０％以上 Ｂ　〃　５０％ Ｃ　〃　５０％未満	目標	Ａ	Ａ	Ａ	Ａ	○ 生徒・保護者の肯定評価　９０％以上 Ａ　〃　８０％ Ｂ　〃　６０％ Ｃ　〃　６０％未満	目標	Ａ	Ａ	Ａ	Ｂ	＜分析＞校内研修や日頃のOJTの実践を通した取り組みが授業力の向上につながった。 ＜改善策＞一人１台端末を活用した学習に向け、ＩＣＴ教育推進リーダーを中心に、さらに組織的な授業改善を行う。
					達成		Ｂ	Ａ			達成		Ｂ	Ｂ		
			・ICT推進教員を中心に校内研修会等を通して、ICTの活用を組織的に行う。	・年３回、ICTに特化した研修会の実施 ・ICTを活用した授業を互いに公開し、活用の方法について情報交換し合う。	目標	＜目標＞カリキュラムマネジメントの視点を常にもち、短いスパンで、各教科、各領域、行事等の一人１台端末を活用した学習・教育効果を評価・検証し、学校組織として取り組む。										＜分析＞ICTリーダーや支援員による研修やグループでの情報交換が見られた。 ＜改善策＞研修会での組織的な授業研究と成功例の個別の情報交換の実践
					達成											
生活・進路指導	【自分の将来に夢や希望をもち、自立して卒業できる生徒の育成】 指標 生徒アンケート 保護者アンケート 教員アンケート 不登校生徒対応	・生徒が自己に自信をもち、自尊感情の向上から自分自身に価値を見出せる生徒の育成 ・特別支援教育の充実と教育センターとの連携。 ・キャリア教育の充実を図り、３年生に進路目標を設定達成させる。	・「安心安全で、認められ、楽しい体験ができる学校づくり」と、関わりの中で、他者から認められ、感謝される体験による自尊感情や自己肯定感の育成。	・不登校生徒の出現率を５％以内とする。	目標	＜達成＞年間３０日以上の欠席者（病気による欠席・そよ風教室登校は除く）、２月末日の段階で１１名、約５％である。減少傾向にあるとは言えないが、そよ風教室との情報交換や連携は年間を通して安定している。										＜分析＞教育センターや医療との情報交換や連携する場面が確実に増加している。 ＜改善策＞自尊感情育成の視点・ねらいを全ての教育活動にもち、実態把握から、自信を付けさせる等の具体的な個々の支援へつなげる。
					達成											
			・個々の生徒が自らの目標を設定でき、その実現に努力できるように、キャリア教育の充実及び改善を図る。	○ 都立第一志望合格 Ａ　〃　９０％以上 Ｂ　〃　８０％ Ｃ　〃　８０％未満	目標			Ａ	Ｂ	○ ３年保護者の肯定的評価　９０％以上 Ａ　〃　８０％ Ｂ　〃　５０％ Ｃ　〃　５０％未満	目標	Ｂ	Ａ	Ａ	Ａ	＜分析＞都立高校推薦入試合格率は（３０人中１０人合格）３０％。私立高校推薦合格者も１４人と、推薦入試で３２％が進路決定に至った。面談の充実と作文・面接指導等を丁寧に行った結果と捉えている。
					達成			Ｂ			達成		Ｂ	Ａ		
学校運営	充実した校内研修と、学び続け、学び合う職員文化の醸成 指標 自己評価の確実な実施 特別支援教育の充実	・教職員相互の理解に努め、緊密な連携の下で教育活動を推進する。（報・連・相の重視） ・カリキュラムマネジメントを重要視することで教育活動の質を向上させ、学習効果の最大化を図る。	・教員各自が自己の役割と責任を深く意識し行動する。 ・主幹・主任教諭等が指導案検討、授業、研究協議等でリーダシップを発揮する。	達成状況を、研究授業及び校内研修全体会と、自己申告面接等で確認し判断する。	目標	・小規模校の長所や強みを考察し、本校の特色のある教育の実現を図る。 ・教職員が互いに理解し合い、尊重し合える職員室の中で、常に緊密な連携のもとに日々の職務にあたれるよう副校長を中心に努力した。										＜分析＞研究テーマに則し、研究授業を実施した。授業改善に小グループで取り組み、都指導主事を招聘した授業研究が改善への意欲の向上につながった。
					達成											
			・特支教育の専門性の向上のために研修会を行う。 ・校内支援委員会をコーディネーターを中心に組織として機能させる。	○ 教員の達成状況　１００％ Ａ　〃　８０％ Ｂ　〃　５０％ Ｃ　〃　５０％未満	目標	Ｂ	Ａ	Ａ	Ａ	・発達の遅れがある生徒、学級不適応生徒、心の悩みがある生徒等について、教育センターの心理士やＳＳＷを招き、具体的事例に基づいた教員研修を実施することができた。						＜改善策＞教員が生徒と寄り添い、その背景をとらえ、的確な生徒理解から、認め励ますことで信頼関係を構築し、個々の生徒に対することが重要である。
					達成		Ｂ	Ａ								
特色のある学校づくり	2大行事の充実	・体育祭と音楽会を三中の２大行事と位置付け、生徒の達成感や自尊感情・帰属意識の醸成を図る。	・各行事の実行委員会及び生徒会を行事のリーダーとして育成し、生徒主体の活動を推進する。	○ 教員の達成状況　１００％ Ａ　〃　８０％以上 Ｂ　〃　５０％ Ｃ　〃　５０％未満	目標	Ａ	Ａ	Ａ	Ａ	・今年は、コロナ禍の中ではあったが、感染防止に配慮しながら制限をせずに実施できた。保護者・地域からも直接応援をいただき、生徒たちが仲間と共に真面目に努力する姿勢が多くの場面で見られ、三中生が個人として、集団として成長できた取り組みとなった。						＜分析＞、今年は、感染防止に最大限の配慮をし従来の形で実施することで、より深い達成感を生徒が味わえた取り組みであった。、学校行事の教育的価値を再認識する活動となった。
					達成		Ｂ	Ａ								
	地域社会との協働	・地域に開かれ、地域に信頼され、地域と共に歩む学校づくりの推進	・コミュニティ・スクール３年目を迎え、地域との連携と学校支援組織の活性化を図る。	・学校支援組織の充実及び「地域防災・安全指導」「地域の人材から学ぶ」「学校・地域美化活動」「挨拶運動等の健全育成」地域を巻き込んだ確実な実施。	目標	Ａ	Ａ	Ａ	Ａ	・コロナ禍の中ではあったが、ほぼ予定通りにCS委員会を開催できた。学校支援地域組織による具体的な活動もさらに充実し、地域貢献の視点・ボランティア精神の涵養につなげた。						＜改善策＞年間を通した学校運営協議会は、順調に実施することができたが、まだ、支援地域スタッフの不足が否めない。スタッフの募集を図り、その確保が必要である。
					達成		Ａ	Ａ								